

7 森林教室等による森林の PR活動について

川内営林署 ○ 森林活用係長 山上 裕行
収穫係長 小笠原 孝
川内森林官 葛西 譲
森林活用係員 板井 忠強

1 はじめに

川内町は、下北半島のほぼ中央に位置し、南方はむつ湾に面し他の三方は朝比奈岳を主峰とする山々に囲まれ、その中央部を川内川が流れ、むつ湾に注いでおり、延長約30kmに及び川内川溪流や川内ダム周辺と、それを包む青森ヒバやブナなどの四季折々の天然美は素晴らしいものがある。

川内町では、こうした豊かな自然環境を、学校教育の場や地域住民が気軽に森林浴が楽しめる憩いの場として広く活用するため、平成2年度に「川内川溪谷遊歩道整備事業」をスタートさせ、営林署に対し国有林の活用についての要請があった。

これを受け、営林署では、その必要性を認め、「せせらぎの森自然観察教育林」内に設置する施設の計画から完成まで、全面的に協力し、平成3年度には、下戸ヶ淵小公園・大滝公園・セキレイ橋などが設置され、総工費1億4千万円を要し、環境整備が整った。

しかしながら、環境が整備されたにもかかわらず、森林に対する町民や子供たちの関心は低く、森林浴を訪れる人が少なかったことから、営林署が中心となり各施設を利用しながら、森林教室を通じ、子供たちや教育関係者、そして町民に森林に対する関心と理解を高める必要があると考え、平成3年度から4年間に渡って取り組んだ結果を発表するものである。

2 取り組んだ背景

川内町のように、豊かな自然環境に恵まれ、遊歩道等の整備がなされたにもかかわらず、子供たちの遊びは依然としてファミコン等の室内ゲームが主流を占め、森林等の自然に関心を示す子供たちが少ない現状にある。

このようなことから、営林署では教育関係者や子供たちに、もっと自然に触れてもらい森林に対する関心を高めたいと考え、平成3年度に完成した川内川溪流沿いの遊歩道を利用し、遊歩道沿いの樹木にネームプレートや巣箱を付けながら、森林教室を実施したいと、第一川内小学校に申し入れたところ、「ぜひ、お願いしたい。」との快諾を得て、平成3年10月に6年生62名を対象に第1回目の森林教室を実施した。

3 森林教室の考え方と実施内容

(1) 考え方

まず、「楽しく、面白く学べること」をモットーとして、学校の授業のような講義形式はできるだけ避け、クイズやゲーム方式とするよう心掛けている。

なぜならば、最初子供たちに森林等の自然に興味を湧かせるためには、「遊び心」を持たせ、自然に触れさせることが大切と考えるからである。

(2) 実施内容

ア ネイチャー・ゲーム

ネイチャー・ゲームの一つ「わたしの木」というものは、2人1組で行い、あらかじめ周囲にある木の名前を覚えておきます。

次に、1人が目隠しをし、もう1人が自分の好きな木に連れていき、目隠しした人は木に触ったり、匂いを嗅いだりして、その木の特徴を覚えます。

そして、目隠しをしない人は、その木から離れたところに連れていき、そこで目隠しをとります。目隠しを取った人がさっき自分で覚えた特徴を基にその木を当てるゲームである。

イ 関所ハイク

関所ハイクとは、遊歩道沿いに一定の区間に、様々な関（ゲーム等）を設けて、それを一つずつクリアして次の関に進むもので、ゲームの内容を変えることにより、継続して実施することができる。

主な関は、

- ・台の上に置いた丸太をノコギリで切ってから次に進む「丸太切りの関」
- ・グループが手をつないで輪を作り、直径1.5m位の大きさの縄の輪を、手を放さず次の人に送り、一巡する「縄くぐりの関」
- ・ラジカセに吹き込んだ鳥の声を聞かせ、.写真を基に名前を当てる「野鳥の関」
- ・関所ハイクを進んでいく途中で、営林署のスタッフが様々な樹木の名前や特徴を教えていくので、最後の関で、木悍や葉・実を見て、樹木の名前を当てさせ、間違っている場合は、後戻りさせ正しい名前を覚えさせる「後戻りの関」

などが関所ハイクの内容である。

ウ 野外炊事

第一川内小学校を対象とした森林教室は、炊事遠足を兼ねており、関所ハイク終了後、広場にブロックで「かまど」を作り、様々な料理を作っていました。薪は営林署で提供した。

エ 森林学習

昼食後に、営林局指導普及課から送付のあったパンフレット等を参考にして、森林の働きや木材の利用方法等をわかりやすく説明し、森林の大切さ等の理解に努めた。

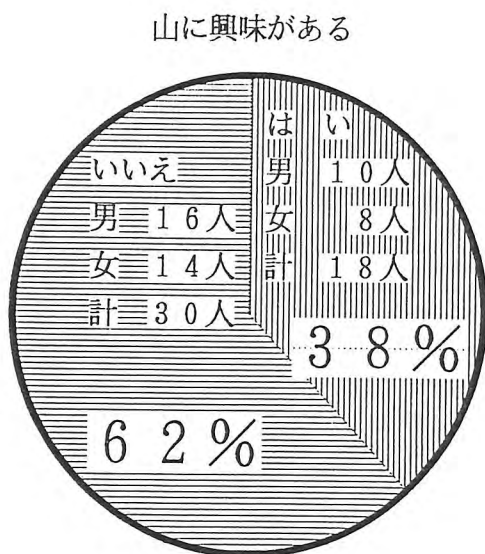
4 アンケート調査について

最初のアンケート調査は、子供たちが山に対してどの程度の関心や知識をもっているか知る必要から、森林教室実施前に行った。

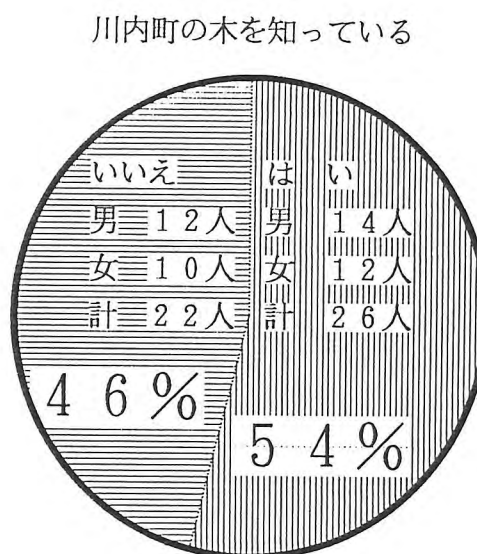
表-1 森林に関するアンケート（森林教室実施前）

質 問	男		女		計	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
山が好きですか？	8	18	9	13	17	31
川内町の木を知っている？	14	12	12	10	26	22
営林署は何をしている所か知っている？	11	15	8	14	19	29
山に興味がある？	10	16	8	14	18	30
5種類以上の樹木を知っている？	7	19	5	17	12	36
森林教室が楽しみですか？	22	4	20	2	42	6

グラフ-1



グラフ-2

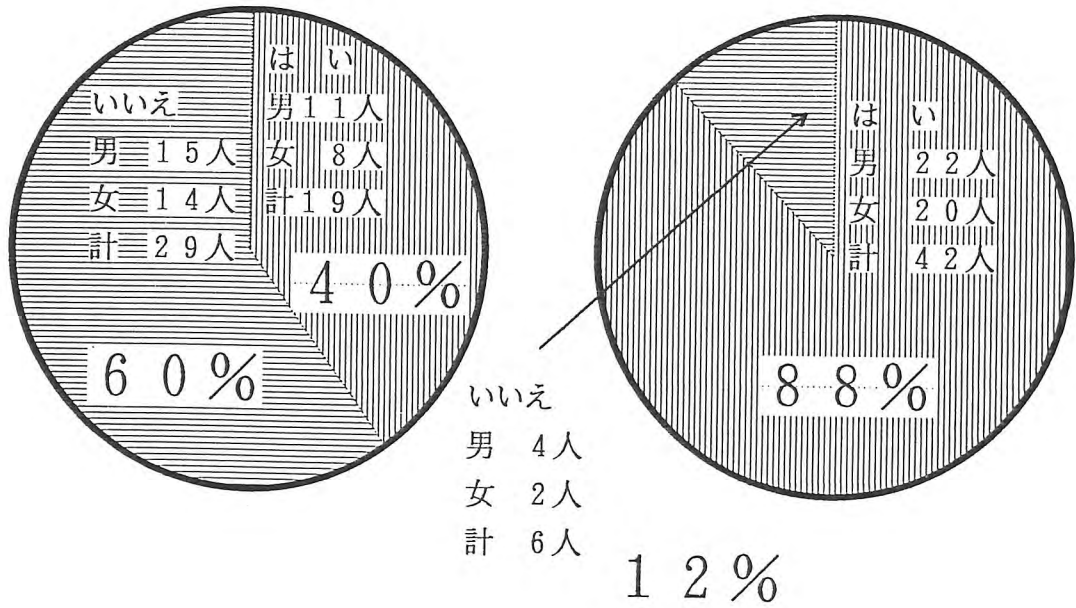


グラフー 3

グラフー 4

営林署が何をしている所か知っている

森林教室が楽しみですか



このアンケート調査の結果、半数以上の子供たちが山に関心がないことがわかり、このため、町の木や営林署の仕事の内容についても知らない子供たちが多くいることがわかった。

しかし、ほとんどの子供たちが営林署が計画している森林教室を心待ちにしていることもわかり、森林教室を通して森林に対する関心を高めていこうという意欲を起こさせてくれた。

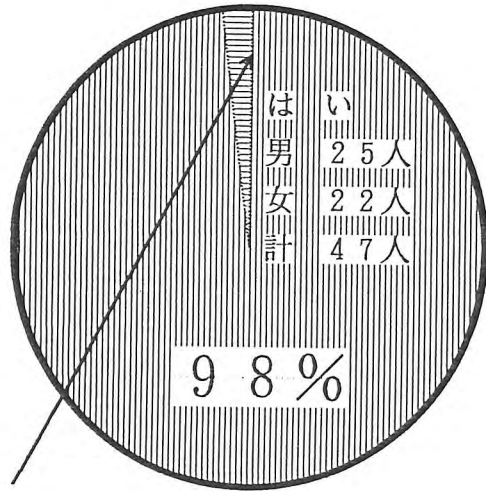
表ー 2

森林に関するアンケート（森林教室実施後）

質 問	男		女		計	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
山に興味を持つようになった	25	1	22	0	47	1
川内町の木や鳥をわかるようになった	25	1	20	2	45	3
営林署の仕事の内容がわかった	24	2	18	4	42	6
5種類以上の樹木の名前がわかった	23	3	18	4	41	7
緑の大切さが理解できた。	26	0	22	0	48	0

グラフ-5

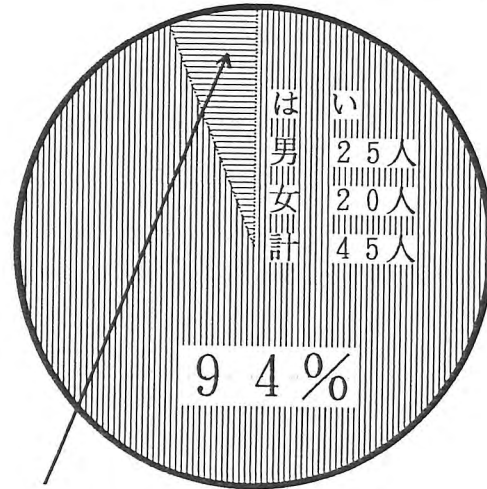
山に興味を持つようになった



いいえ
 男 1人
 女 0人
 計 1人 2%

グラフ-6

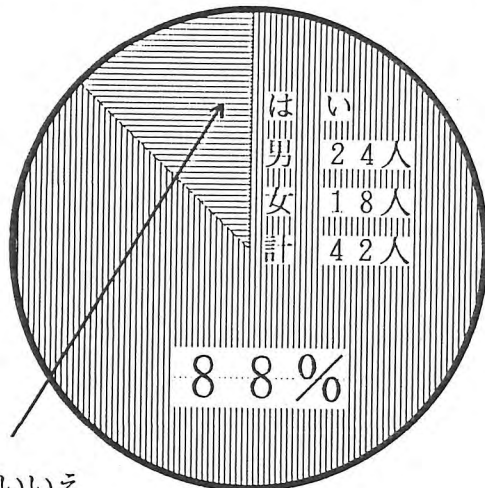
川内町の木や鳥がわかるようになった



いいえ
 男 1人
 女 2人
 計 3人 6%

グラフ-7

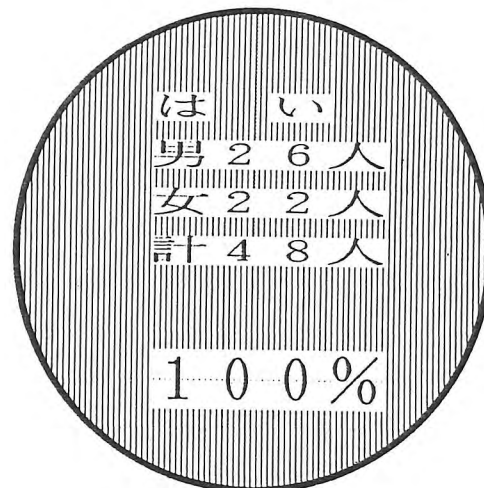
営林署の仕事のわかるようになった



いいえ
 男 2人
 女 4人
 計 6人 12%

グラフ-8

緑の大切さが理解できた



このほか、「山の好きなところ」「森林がどうなってほしいと思いますか」の2つについて回答を求めたところ、

・ 山の好きなところ

- ① 緑がたくさんあるところ
- ② さわやかで、落ちつくところ
- ③ 四季がとてもきれいだから
- ④ 空気や水がきれいだから
- ⑤ 山菜採りが面白いから
- ⑥ 色々な植物があるから

・ 森林がどうなってほしいと思いますか

※ 子供たち全員が森林が増えてほしいと答えている

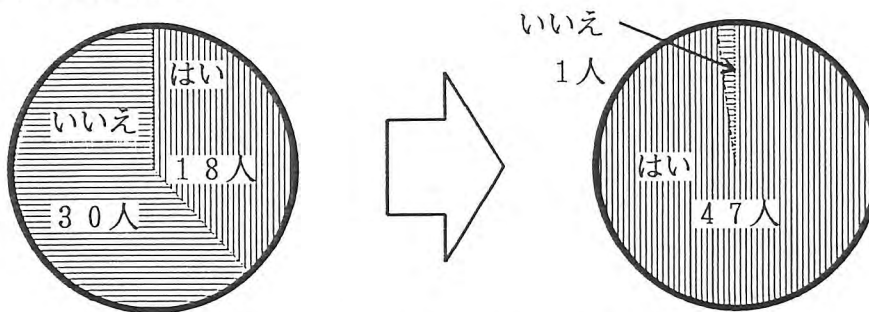
少数意見として

- ① 森林が増えて、空気をきれいにしてほしい
- ② ゴミ一つ無い、きれいな森林になってほしい
- ③ このままでいてほしい
- ④ いきいきとした森林になってほしい

などの回答があった。

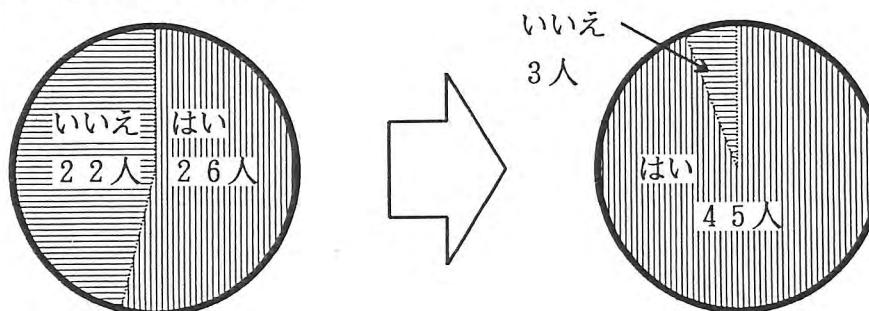
5 森林教室実施前と実施後との対比

(1) 山に興味がある



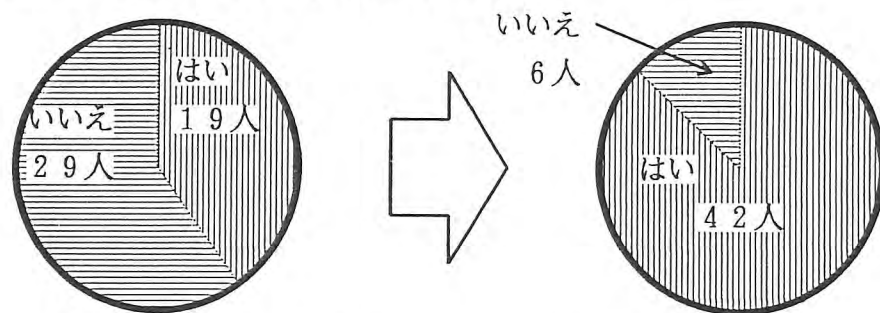
はいと答えた人が29人増えた

(2) 川内町の木を知っている



はいと答えた人が19人増えた

(3) 営林署が何をしている所か知っている



はいと答えた人が23人増えた

6 研究の結果

(1) 子供たちの反応

アンケート調査の結果、森林教室実施前の調査結果と比較して、山に興味があると答えたのが、29人増えたのをはじめ、町の木や鳥、営林署の仕事、緑の大切さ等ほぼ全員が理解できたと答えている。

また、森林教室終了後の子供たちの感想文を見ると、「山が好きになった」「もう一度森林教室がしたい」という声が圧倒的多数を占め、森林教室の経験者である川内中学校の生徒が文化祭において、郷土の樹木として営林署が寄贈した「木悍」が展示されるなど、森林に対する子供たちの関心が高まってきている。

(2) 教育関係者や町民の反応

一方、教育関係者や町民の間からは、森林教室の様子がテレビ放映されたり、川内町広報に掲載されたことや、青森銀行川内支店に森林教室の模様を写した写真展や文集の展示をするなど、PRに努めた結果、関心が高まってきており、とりわけ、教育関係者の関心が高く町教育委員会からは、町内全小学校を対象にして森林教室を実施してほしいとの要望が出され、平成5年からは、畑・湯野川・戸沢の三校を対象とした森林学習を実施している。

このほか、地域での産業祭等のイベントには、積極的に参加し森林クイズや職員手作りの木工品の販売等を行い、PR活動に努めているところである。

7 考察

このような取組の結果、子供たちの山に対して興味が高まってきたことは、我が署のPR活動の成果であり、教育関係者等についても、営林署に対する期待が高まってきたことは、喜ばしいことである。

しかしながら、時間的制限等から十分対応しきれない面があったことは、今後の課題である。

これを克服していくためには、営林署の職員が年々減少し、森林教室に大勢での対応が難しい現状のなかで、私たちインストラクター1人ひとりが、あらゆる機会を通じ、更に、自己研鑽に努め、各自のレベルアップを図ることが重要である。

最後に、今後こうした森林教室を小学生だけでなく、一般町民にまで幅広く対象者を拡大して実施したいと考えているところであり、地域のイベントにも積極的に参加し、森林の大切さ、緑の大切さを、更に、PRして行かなければならないと考えているところである。

写真-1

かわうち湖より
於方岳方面を望
む。

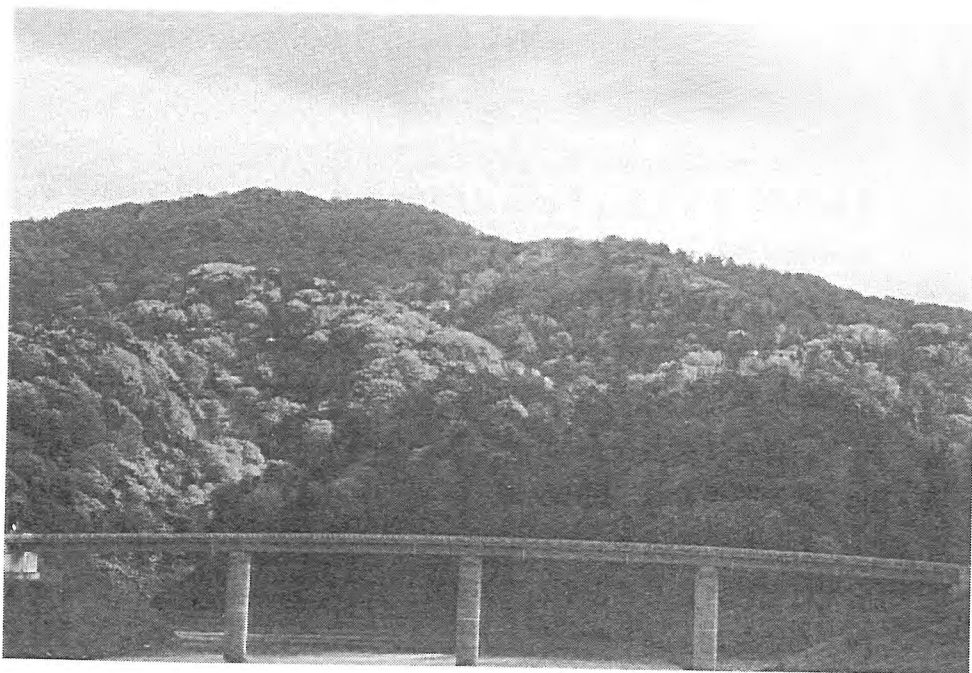


写真-2

川内ダム

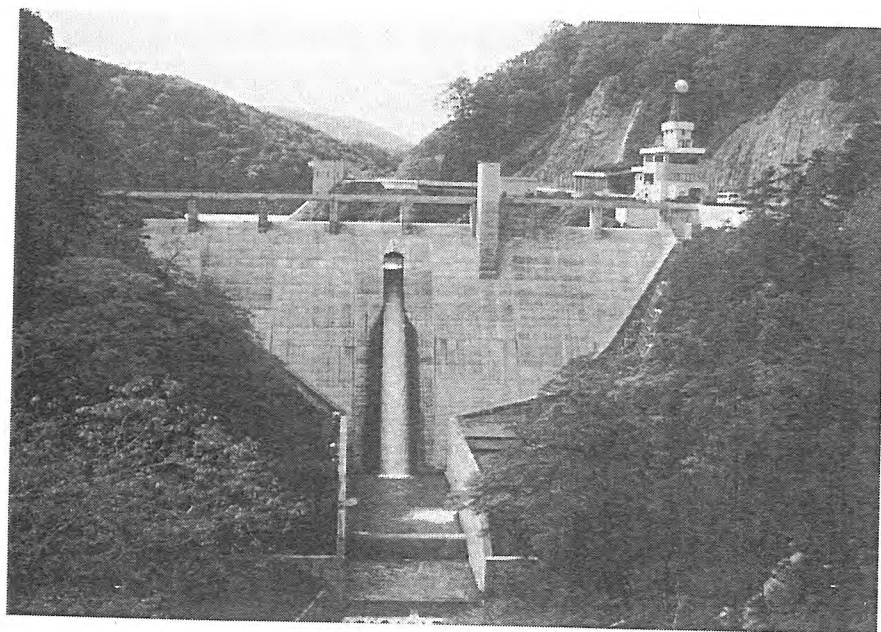


写真-3

大滝



写真-4

下戸ヶ淵
小公園



写真-5

巣箱の取り
付け風景



写真-6

三校集合学習
の風景（鳥の
名前当てクイ
ズ）



写真-7

ネイチャー・
ゲーム（わた
しの木）

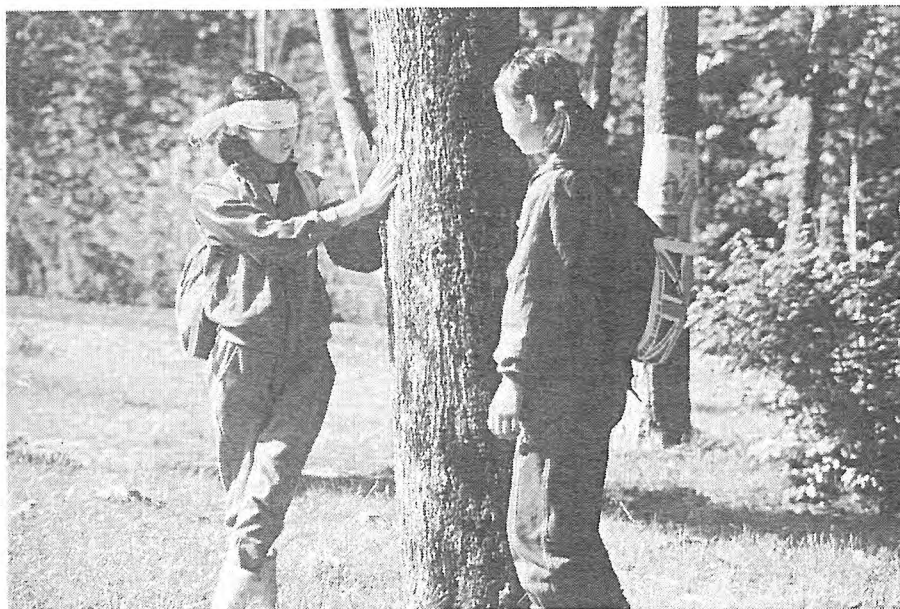


写真-8

丸太きりの関
の風景



写真-9

縄くぐりの
関の風景



写真-10

野外炊事の
風景



写真-11

屋内学習の
風景

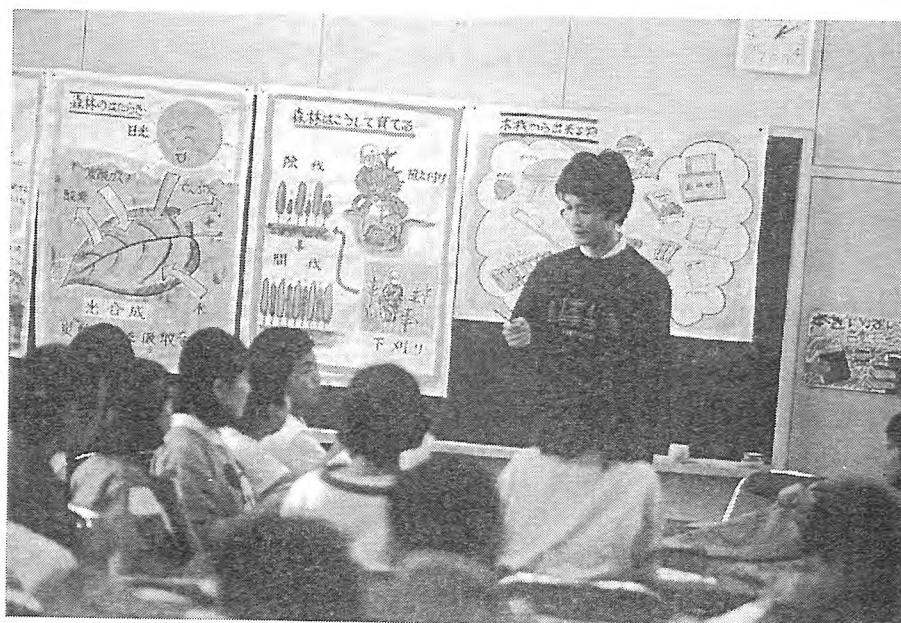


写真-12

営林署で作
成した文集



写真-13

川内町広報
に掲載

